

CONTENTS

有機農家にインタビュー！ ○土肥潤也さん ……	1
宣言者のページ ○土江信雄さん	
有機農業現地からのレポート	
○食と農・かきのきむら企業組合 福原歴史さん ……	2
有機農業協会波及講座開催報告	
各市町村有機農業推進協議会について ……	3
「島根ふるさとフェア2016」出展報告	
「オーガニック EXPO2016」出展報告 ……	4
シリーズ第28弾「環境農業」トピック ……	5
行事予定	
各種受賞について ……	6
○農事組合法人 ファーム宇賀荘 ○有限会社 やさか共同農場	



『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。

有機農家にインタビュー！～土肥潤也さん～

「農業で生活をし、これから安来市で農業を始める人たちのためのモデルになりたい。」今年1番の冷え込みの中、せっせと次の日の出荷の準備をしながら話す土肥さん。

広島県から安来市に1ターン後、ハウスで葉物野菜を中心に有機栽培している、土肥潤也さんを紹介します！

施設野菜に興味がありました

サラリーマン生活をしている中で、以前よりハウス等施設による野菜栽培に関心があったという土肥さん。

1ターン先を安来市に決めたきっかけは、農業を始めると決心し、各地で開催されている新規就農希望者のためのフェアへの参加や、実際に現地訪問する中での安来市の地域の方の対応だった。

「北海道から九州まで、いろいろな所を回る中で、安来市の受け入れ態勢や担当者の対応も良かったが、最終的には地域の方に歓迎していただいたことが決め手になった」とのこと。

その後、平成26年8月に、約80a借りた土地の内23aにハウスを建てて、念願の施設野菜の栽培を始めた。

有機農産物の安定供給が課題です

現在は、地元で新鮮で安心な野菜を出荷することを目的に、主にU1ターンで就農したメンバーで構成されている「島根おやさい本舗」の会員となり葉物野菜を中心に出荷しているが、今年度は有機野菜を専門に生産する「赤江・オーガニックファーム」を仲間で設立し、有機JAS認定も受け野菜を出荷している。

「今は生産を安定させることが1番」という土肥さん。

販売先には比較的恵まれているが、出荷先への要望に答えられていない部分がある上、1ターンで周りに知り合いの少ない農家ならではの悩みなのか、パートさんなど人手の確保が難しいなど、課題はいろいろとあるそう。

これから安来市で農業を始める人たちのためのモデルになりたい

「将来的にはもっと所得を増やしていき、これから安来市で農業を始めたいという若い人たちのためのモデルになりたい」という。

悩みの1つであった人手についても、地元JA等が対応策を出してくれるなど、糸口が見えてきている。

地元の方たちに積極的に受け入れてもらい、仲間にも恵まれ、非常に農業のしやすい環境なので、あとは自分たちが頑張ることで農業が魅力的に映るように頑張っていきたいと思いを強くする土肥さん。

県東部ではあまり多くない若手有機農家。今後の活動について、期待とともに注目していきたい。



プロフィール

とひ じゅんや

ハウスによる有機葉物野菜を中心に栽培する専業農家。

2014年8月に広島県から1ターンして就農。現在の販売先は主に島根おやさい本舗などを通じた出荷販売。島根おやさい本舗のフェイスブックも担当中！

アカウント名『島根おやさい本舗』

<https://ja-jp.facebook.com/ShimaneOyasaiHonpo/>

【県農産園芸課有機農業グループ】

農薬や化学肥料に頼らない私のお米作り

出雲市平田町
土江信雄

今年でちょうど10年目を迎える農薬や化学肥料に頼らない私のお米作り、一昨年春、郷里へUターンし週末農業から平日農業に転換中です。大都市等での転勤生活を通じて各地で多くの子供達やお母さん方がアトピー性皮膚炎や花粉症などで苦しんでいることや、ちょうどその頃に「いのちのスープ」(料理研究家・辰巳芳子さん提唱)(=玄米スープ)が話題になっていたこと等から、日本人の食の基本「ごはん(お米)」が如何に大切な存在か、という点に気付かされたことが、このようなお米作りを始めるきっかけとなりました。以来、農業誌や有機研修などを参考に試行錯誤しながらの日々ですが、①雑草対策、②病害虫対策、③販路確保など、課題山積です。

コナギの季節を通じた旺盛な繁殖や昨年発生した紋枯れ症状など、異常気象も懸念しながら思案を重ねていますが、試行錯誤は収束するどころかどんどん広がる一方です。そんな中で、昨年、穴道湖・中海再生事業で採取された海藻を栽培に使用した結果、東京青山ファーマーズマーケットのお客様や、地元の子供達、お母さん方に「美味しい!」と評価して頂いたことや、町はずれの当圃場周辺で近年ホタル達が僅かながら復活してきたことなどが励みになります。自然再生、環境保全にお役に立ちながら、美味しい、安心・安全なお米や野菜を収穫できるよう、仲間作りや新しいアイデアを導入しながら今年も汗を流したいと考えております。



試行錯誤その① 手製レイキ除草機
農業誌の記事を参考に手作りしたレイキ除草機を田植え直後の初期除草に活用しました。効果に手ごたえあり!

連絡先：土江信雄 (080-1917-8148)



試行錯誤その② ええ!? タケノコ?
田んぼに突然タケノコ!? 農薬等不使用の苦勞を理解して頂ける効果は大! 実効果は…?



試行錯誤その③ (2015.10.18) 青山ファーマーズマーケット出店模様
大都市の消費者の皆さまに直接対面して栽培の苦勞や工夫したことなどをお話し、ご理解を深めていただいた上で販売ができました。その模様は日経トレンディ誌に取り上げられました。

『しまね有機の郷』
現地レポート

第2回

吉賀町柿木村

食と農・かきのきむら企業組合
福原 歴史さん



「みんなでひろげる有機の郷事業」を活用した生産者からのレポートです

柿木村の有機農業運動は35年になりますが、生産者の高齢化や担い手不足、更に農協や町村の合併もあり、農的暮らしへの関心は薄れてきているのが現状です。農地の荒廃が進み集落維持も困難な状況になっている中で、今こそ再構築しなければ村は崩壊してしまうという危機感から有機農業生産組織を中心に企業組合を設立しました。

組合設立には事務所の開設や設備投資が必要ですが、まずは、供給体制を整備しなければなりませんので、有機の郷事業により配送用トラックを導入しました。山口県の岩国市や周南市、島根県の益田市の消費者グループには1年を通して毎週1回定期供給しています。その他、広島市のスーパーでは第2、第4土曜日にオーガニックマルシェを開催し、更に、広島市や周南市、益田市などの産直市にも積極的に参加しています。消費者との提携や交流の中で最も重要なことは配送を第三者に依頼しないということだと思います。顔の見える関係は写真を並べるのではなく、直接会って農村の現状や田畑の様子を知らせることではないでしょうか。生産者は自ら配送し消費者に覚醒を呼びかけなければなりません。

今後は、定期配送を周辺都市に拡大し、新規就農者やU・ターンの雇用にも繋げていきたいと考えています。



「土から学ぶ」

NPO法人 島根有機農業協会

2月4日、益田市立市民学習センターにて、有機農業技術波及講座が開催されました。テーマは『島根県内の土壌の性質 適地適作と肥培管理』。講師は島根県内の圃場の調査を数多く手がけ、島根の土壌に精通した、元島根県農業試験場職員の古山光夫氏。県内の農家や法人、普及員の方などが参加されました。

講座では、土壌にはどんな種類がありどう分類されているのか？ 島根県の分布の特徴、そして、農地として利用するにあたっての土壌の状態に応じた対処法等を学びました。そして、近代化にともなう収量や品質不安定・環境への負荷の拡大といった弊害を防ぐには、土壌管理や肥培管理の見直し(土作り)が大切とまとめられました。

質疑応答の時間は、「ハウスで牛糞堆肥、ゼオライトを施用していてPHが高くなりすぎた場合どうすればよいか？」など、各自の実践、担当される圃場にあてはめた質問が上がりました。農業を実践すると立ちちはだかる壁。有機農業の枠を超え、土壌という基本的な側面をよく踏まえて対応すれば、解決の糸口が見つかるかもしれませんね。



参加者の声

- 自社圃場の土壌の特徴が再確認できてよかった。
- (土壌の)分析を外注するほど経費がかけられないので、コストと見合う適地適作のための観察方法を知りたい。
- 雑草の種類や生え方で判断したい
- 土壌の話は有機農業でもしばしば出てきますが、ここまで詳しく専門的に聞いたのは初めてだったので、とても良い機会でした。土作りが大切なことを改めて確認しました。とてもいい研修でした。ありがとうございました。

県内各地で有機農業推進協議会が設立されています

きりり第28号でお伝えした江津市有機農業推進協議会の設立に続き、平成27年度には安来市、浜田市、美郷町でも協議会が設立しました。市町村単位での協議会設立の動きは来年度以降も拡大する見通しで、県内で徐々に有機農業の取組が広がっています。

市町村の協議会では栽培研修会や食育活動など、有機農業の推進に関する様々な取組がされており、県では「みんなでひろげる有機の郷事業」の中で活動を支援しています。

本事業は協議会への支援だけでなく生産者向け、流通販売事業者向けのメニューがあり、幅広くご利用いただけます(補助率 ソフト1/2以内、ハード1/3以内)。

補助事業の詳細は島根県農産園芸課のホームページに掲載していますので、ご覧いただき、28年度内に事業実施される場合はお住まいの市町村あるいは隠岐支庁・農林振興センターへご相談ください。

島根県 有機の郷事業

検索

事業の種類		補助対象経費	補助率	補助対象事業費
生産者支援事業 <small>※生産者(団体)、農業生産法人、NPO法人、消費者団体等への支援</small>	チャレンジ事業	ソフト事業:有機栽培の技術実証・技術研修、販路開拓、消費者への理解促進、新規就農者育成等に係る経費	ソフト事業 1/2以内	(上限)1,000千円 (下限)100千円
	実践拡大支援事業	ソフト事業:販路開拓、消費者への理解促進、技術導入等に係る経費 ハード事業:生産関連施設・機械、小規模基盤の整備に係る経費		(上限)20,000千円 (下限)400千円
流通・販売者支援事業 <small>※流通販売・加工・飲食事業者への支援</small>	チャレンジ事業	ソフト事業:有機加工品の開発、販売拡大、消費者への理解促進等に係る経費	ハード事業 1/3以内	(上限)500千円 (下限)100千円
	実践拡大支援事業	ソフト事業:有機加工品の開発、販売拡大、消費者への理解促進等に係る経費 ハード事業:販売・加工関連施設・機械の整備に係る経費		(上限)2,000千円 (下限)200千円
地域活動支援事業 <small>※地域の関係者で構成され協議会への支援</small>		地域で有機農業を推進するための検討、調査、体制整備に要する経費	10/10以内	(上限)1,000千円 (下限)なし

広島へ
初出展!

島根ふるさとフェア2016

で島根の有機産品をPR!

1月23(土)~24日(日)、広島市のグリーンアリーナにおいて開催された「島根ふるさとフェア2016」に、島根の有機農業のPRを目的とした初のブース出展を行いました。

ブース内では、島根の有機農業の取り組みについてパネル展示を行ったほか、出展を希望された4業者の生産者が参加し、有機認証の葉物野菜、米、茶、あんぼ柿、甘酒などを販売。広島への販路拡大に向けた貴重なニーズ把握の機会として、試飲提供による味の特徴や栽培・加工方法などを熱心に伝えていました。

当日は悪天候の中、2日間で11万人以上の来場者があり、多くの広島の消費者へ島根の有機産品を知っていただくことができました。



● 島根の有機農業PRブース



● 会場内の様子



【県農産園芸課有機農業グループ】



オーガニックEXPO2016において 「島根県パビリオン」を出展しました!!



平成28年2月10日(水)~12日(金)に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「オーガニックEXPO 2016」において島根県パビリオンを出展し、県内7事業者が自社有機食品の販路拡大を目指した商談の実施や、島根県ブースでは、県内の有機JAS認定を取得した商品の展示やチラシ配布等のPRを行いました。

今回はスーパーマーケットトレードショー等5展示会が同時開催であったこともあり、全国のバイヤーが3日間で約9万人集まり非常に活気あふれるものとなりました。

島根県パビリオンとしての出展は6回連続ということもあり、全国のバイヤーの方へも島根県の有機農業への取り組みが認知されてきていると肌で感じています。

次回は平成29年8月24日(木)~26日(土)にパシフィコ横浜(神奈川県横浜市)で開催予定です。新たに全国に向けた販路拡大をお考えの皆さま是非お気軽にご相談ください。

オーガニックEXPOは、有機JAS認証を受けた有機食品(農産物、畜産物、加工食品)から衣料品、化粧品まで多種多様なオーガニック製品を対象とした見本市で、全国からバイヤーの集まる、日本最大級のオーガニック専門展示会です。

【県農産園芸課有機農業グループ】



秋冬どりキャベツの太陽熱消毒+ネット被覆栽培について

秋冬どりキャベツの有機栽培における問題の一つに害虫による食害があります。特にこの作型では気温の高い生育初期に害虫被害が大きく、これをいかに防ぐかが課題となっています。そこで、昨年度当課では「キャベツのネット被覆栽培による害虫対策」の現地実証を行い、ネット被覆による十分な害虫防除効果を確認しました。しかし、ネット内のタデ類、ヒエ類などの雑草対策が課題として残り、今年度は太陽熱消毒による抑草効果について、松江市東出雲町のは場で現地実証を行いました。品種は「松波」を使用し、基肥施肥や畝立てを行った後に太陽熱消毒を8月上旬から約1か月行い、雑草の生育状況を確認しました。

その結果、太陽熱消毒区は無処理区と比較して雑草の発生が少なく、十分な抑草効果が確認できました(写真2)。太陽熱消毒実施の際のポイントは、①処理期間は1年中で一番暑い梅雨明けから8月中下旬くらいまでとします。②基肥施肥と畝立てをあらかじめ行い、十分灌水した後でビニールを被せます。③ビニール(古ビニールでも可能)を畝全面に被せる時、地表面との間に隙間の無いようにします。消毒後に耕起すると、太陽熱がとどかなかった地表面から5cmより深い所にある雑草種子が表面に出てきて、雑草が生えてしまうので注意が必要です。

また、ネット被覆の効果は、目合い1.0mmと不織布の2種類を用い、定植直後の8月29日から10月21日まで被覆し、生育状況と食害被害を比較しました。昨年同様、十分な害虫防除効果が確認できました。さらに、収量は無被覆ではアオムシやヨトウガなどの被害が多く見られましたが、1.0mmネット区と不織布区では害虫の被害もなく無被覆区の2～3倍程度の収量となりました(図1、きり第28号参照)。

今後は、太陽熱消毒の実施期間やネットの撤去時期の判断、有機質肥料の施肥方法などを検討し、現地への早期普及を図りたいと考えています。



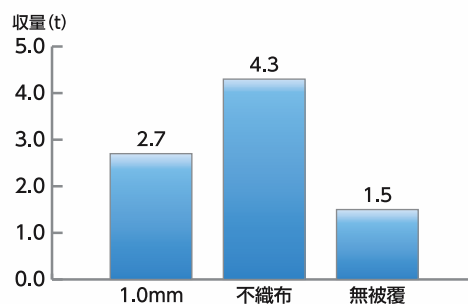
(写真1) 太陽熱消毒実施の様子



(写真2) 左: 無処理区、右: 太陽熱処理区



(写真3) 害虫による食害の様子
左: 無被覆区、右: 不織布区(食害なし)



(図1) 各区における収量
(調査日: 平成27年12月11日)

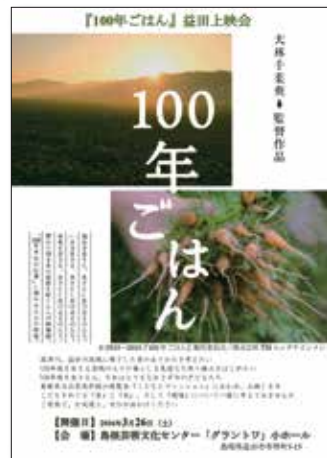
担当: 農業技術センター 技術普及部 有機農業普及課
TEL: 0853-22-6997 E-mail: nougi@pref.shimane.lg.jp

行事予定

『100年ごはん』益田上映会開催について

高津川、益田川流域の、こどもをめぐる「食」、「衣」、そして「環境」について一緒に考えるために、島根県立石見美術館の展覧会「こどもとファッション」にあわせて上映会を開催します。
皆さまのお出かけをお待ちしています。

- と き** 平成28年3月26日(土)
- と ころ** 島根芸術文化センター「グラントワ」
益田市有明町5-15 電話:0856-31-1860
- 内 容** (1)映画上映 1回目10:00~11:05 2回目14:30~15:35
(2)トークショー 11:20~12:10
(3)マルシェ 10:00~16:00
(4)展示コーナー 9:30~16:00
- 入 場** 映画とトークショーにはチケットが必要です
前売券 500円(保育所給食の試食“おにぎりと味噌汁”付)
当日券 500円(試食なし)
- 同時開催** 「100年ごはん」100人ごはん笑顔写真コンテスト
食にちなんだ笑顔の写真を募集しています
※詳細はお問い合わせ先までご連絡ください
- お問い合わせ先** 『100年ごはん』実行委員会事務局(吉田保育所内) 電話:0856-22-1730



平成27年度

多面的機能発揮促進事業 中国四国農政局長表彰

環境直接支払最優秀賞受賞!!

～ 農事組合法人 ファーム宇賀荘 ～

中国四国農政局では、水路や農道等の地域資源の保全管理、生産条件不利地における農業生産活動等の維持及び環境保全効果の高い営農活動など、農業の有する多面的機能の発揮を促進する活動を支援する事業に取り組まれている組織等を対象に、優良な取組について表彰を実施しています。

このたび、環境保全型農業直接支払部門で、農事組合法人ファーム宇賀荘(安来市宇賀荘町)が最優秀賞を受賞し、1月29日(金)に岡山県の中国四国農政局で授賞式が開催されました。



平成27年度

環境保全型農業推進 コンクール

有機農業の部 農林水産大臣賞受賞!!

～ 有限会社 やさか共同農場 ～

環境保全型農業推進コンクールは、有機農業をはじめとする環境保全型農業の確立をめざし、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、環境の保全活動を通じ地域社会の発展に貢献している農業者等を表彰するもので、毎年農林水産省の主催により行われています。

平成27年度は島根県から有限会社やさか共同農場(浜田市弥栄町)を推薦し、長年の取組が評価され、見事<有機農業の部>において『農林水産大臣賞』を受賞しました!

3月2日(水)に東京の如水会館で表彰式が行われます。この様子は次号改めて掲載します。

島根県有機農業グループの公式Facebookページを運用中!



アカウント名

島根県有機農業グループ

FacebookURL: <https://www.facebook.com/shimane.yuuki>

*生産者からの情報提供も受け付けております。掲載、リンクを希望される場合には、
有機農業グループ(0852-22-6477)までご連絡ください。



【県産産園芸課有機農業グループ】

宣言の状況

(平成28年1月末現在)

3,820件

消費者の方……3,060件
農業者の方……623件
企業・学校等……136件
その他……1件

- この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方々及び関係機関に配布しています。
- ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集

島根県農林水産部農産園芸課 (平成28年3月1日発行)

〒690-8501 松江市殿町1番地

E-mail econousan@pref.shimane.lg.jp

TEL.0852-22-6704/FAX.0852-22-6036

URL: <http://www.pref.shimane.lg.jp/nosan-engei/>

Facebookアカウント名「島根県有機農業グループ」(<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>)

